



## 治療した歯もむし歯になるの？

No.70

「むし歯になって金属やプラスチックなどを詰めたり、かぶせたりしたのに、またむし歯になった！！」そんな経験がある人はいませんか？治療したはずなのにどうしてまたむし歯になるのだろうか？そう思う人も数多くいます。

むし歯は歯の表面に数多くの種類の細菌が集まってできた**バイオフィルム**による感染症です。多くの細菌が食べかすなどをもとにどんどん増殖しその結果大量の酸を出します。私たちの歯は「**ハイドロキシアパタイト**」という無機質の結晶で覆われています。これをエナメル質と言います。このエナメル質やその下にある象牙質やセメント質などが細菌によって出された酸によって溶かされていく、これがむし歯なのです。



一度むし歯になって治療した歯にかぶせものや詰め物で修復するとその表面にもバイオフィルムは形成され多くの酸が金属やプラスチックに作用します。しかし、これらの材料は細菌から出された酸くらいでは容易に溶けることはありません。



ではなぜまたむし歯になるのでしょうか？詰め物の場合はその周りから、かぶせものではその淵の部分からむし歯が発生しやすいといわれています。

即ち**修復物と歯との間からむし歯が発生するのです**。むし歯の治療では細心の注意を払って行い、修復物と歯との間に隙間が全くないように作ります。

しかしながら口の中の環境は非常に苛酷なもので冷たいもの、熱いもの、酸っぱいもの甘いもの、液体、固体、流動性のあるもの、など様々なものが様々な条件のもとで入ってきます。また、咀嚼により非常に強い力がかかってきます。長年のこれらの事象が修復物にダメージを与え徐々に適合が悪くなっていくのです。また金属の修復物はセメントを使って歯に接着させます。そのためどうしても修復物と歯との間にセメントの層ができてしまい、過酷な口の中の環境によってセメントが崩壊したり溶け出たりして適合が悪くなっていきます。

そういうわずかな隙間がむし歯の発生しやすい環境を作ってしまう。同時に歯周病の原因となる歯石も沈着しやすくなっていきます。

では、どうしたら新たなむし歯の発生を食い止めることができるのでしょうか？それは虫歯の原因であるバイオフィルムを除去もしくは付着しないようにする事です。



つまり普段の**歯ブラシ**はもちろん、**デンタルフロス**(糸ようじ)や**歯間ブラシ**(隙間専用の歯ブラシ)などを用いて歯の隅々まできちんと磨くことが最大の予防策となるのです。同時に定期的にかかりつけの歯医者さんに行って、修復物の適合がいいかどうかをチェックしてもらうのも有効といえます。

歯磨きをしていて毛先が引っ掛かる、デンタルフロスをする時フロスが切れてしまったり引っかかってほつれてしまうなど、隙間が開いていることが疑われる場合は直ぐに歯医者さんに受診するといいいでしょう。



一般社団法人  
**柏歯科医師会**



http://kashiwa.cda.or.jp/  
Email : kda@kamukamu.or.jp